

KSKR  
NO. 30



バンジー  
たいり 健一

発行 1998年10月  
編集 クリエイティブハウス  
“バンジー”

## バンジー旅行いよいよはま屠場

もうすっかり涼しくなり、暑かった夏がウソのようです。バンジーのみんなは夏の間疲れもなく、元気に日々を過ごしています。

バンジーでは夏の終わりに、横浜方面へ2泊3日の旅行に出かけました。中華街や鎌倉方面などへ出かけていき、それぞれに楽しみました。また、それとは別に、地域の人と交流を深めようという目的で、横浜の屠場の見学と、そこで働く人たちとの交流の場を持ちました。実際のところ屠場への見学に関してはバンジー関係者の中でも、様々な考えがあり、楽しみにしている人もあれば、心配、不安だという人もいました。けれども、現場の人たちとのバーベキューやうでずも大会、バンジーの「元気がでる話」などを通して屠場で働く人たちの、気さくで温かい人柄に触れることができました。知らない人の中では極度に緊張し、緊張のあまりごはんもものを通らず、大声で叫んだりしてしまうNくん。今回は特に調子が悪かったにも関わらず、屠場の人たちに受け入れられ、バーベキューをほおぼり、楽しんでいました。

3日目、いよいよ仕事場の見学です。内心、ドキドキしながら仕事場に入りました。初めて見るウシの巨体に驚き、熱気に圧倒されましたが、何より働いている人のチームワークのよさが印象に残りました。「一人が皮をはぐときは一人がサポートする」といったことをしないと、けがをしてしまうから絶対に人の足は引っ張らない」と、屠場の方が説明してくれました。

また、屠場には差別をされてきた歴史があります。仲間の中には、結婚を反対され、相手の親に「お前は穢れている」と棒で叩き出されたこともあったと聞きました。差別を受けながらもそれに立ち向かってきたことを知り、Nくんをも受け入れてしまうその懐の深さにも納得がいくような気がしました。差別や偏見を許さない社会の実現のためには差別を知り、そこから目をそらさないことが大切なのだと改めて感じます。

さて、11月22～23日には、奈良県においてピープルファースト大会が行われます。実行委員会を作り、1年間かけてじっくりとやってきたことの集大成の大会です。バンジーでも実行委員となり取り組んできたメンバーがいます。ぜひ成功させ、関わってきた全ての人にとって、今後につなげていける素敵な経験になれば、と思います。

(よしたけ)



## パン部門よい

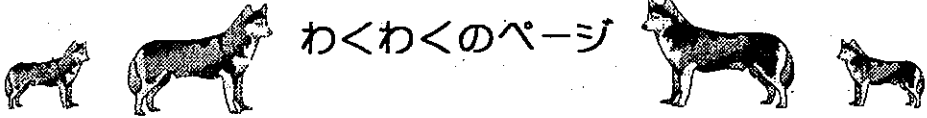


初めまして。4月から週3回パン屋で働いている川口朝子です。今回はあまりスポットを浴びることのない職員を中心に私からみたパン屋を紹介したいと思います。パン屋は独特なノリでみんなを引っ張るリーダーの吉竹さん。朝から大きな声で歌をうたう（これがとても上手い）陽気な竹内さん。みんなが忙しく動き回る中、ほのぼのと周りを和ませている幸女さん。良く言えばおおらか、悪く言えば大雑把なパン屋の中で、一人几帳面できれい好きな豆子さん。そして、いつも元気にそれぞれの仕事をこなす個性あふれるメンバー達で構成されています。しかし、パンを作る作業で一番重要なのはラジオでしょう。このラジオから流れる音楽がなければおいしいパンは作れません。さて、メンバーと職員とラジオとのチームワークによって作り出されるパンは、時に小さかったり、形がいびつだったり、満足いく出来にするのはなかなか難しかったです。でも形は悪くても心は込められています。味は本物だと私は思います。体に優しい本物のパンが食べたい人は、パンジーパン屋のパンをどうぞ。 (川口朝子)

## ＊ クリエイティブ部門よい ＊

パンジーには見学者がよく来る。朝、メンバーがそろったときに、「今日は〇時にどこそこの〇△さんたちが見学に来るからよろしく！」と伝えると、元気よく「ハイ！」と『Wellcome精神』豊かなJ・Tさんが案内係をかって出る。そして、見学の人たちが到着するやいなや、ダダダーっと玄関へ駆けつけ、挨拶の後、得意のハンドルを握るジェスチャーで「車で来たのか？」と尋ねる。彼女は、はじめは照れていても、そのうち見学の人の手をしっかりと引き、クリエイティブ、パン屋へと案内。少しはなれた場所にあるショップへはまだ自信がないのか、他のメンバーにまかせている。それぞれの仕事の説明は、古くからいるメンバーがしっかりとやってくれる。

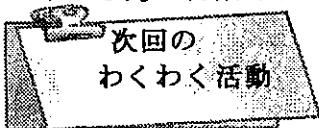
後日、ある見学者の方から、「メンバーの案内や説明する姿に心あたまるものがあつた」との手紙が届き、それと共に「元気がでるTシャツ」のたくさんの注文が入っていた。日に日に涼しくなるなか、メンバーの心が伝わったのだなあ、と、心あたりのいい気持ちになる秋の頃である。 (はるしゅん)



過ごしやすい季節になりました。わくわく活動に参加するメンバーも「スポーツの秋」、「芸術の秋」ということで、ハイキングや映画鑑賞、吉本新喜劇などに出かけてゆき、それぞれの秋を満喫しているようです。

そんな中、4年ぶりにわくわくに参加したUさんがいました。Uさんは、申し込みはしたものの、気になってしょうがない様子で、「ちゃんと、ヘルパーさんにゆってくれた？ハイキング、何着ていこか、なんぼ持っていこか」と、何度も確認に来ていました。久しぶりのわくわく参加で不安になっているUさんと一緒に出かけることになったのは、6月頃から活躍している‘ミセスヘルパー’Mさん。始めこそ緊張していた2人でしたが、生駒山の「らくらくハイキングコース」をゆったりしたペースで歩きながら、時々冗談を言ったりするMさんの明るさに、Uさんの不安も吹っ飛んだようでした。帰り際には、「また一緒に行こな、おねーさん(!)」とマダムキラーぶりを発揮しました。これまでいろんな不安を抱え、積極的にパンジーの行事や、わくわく活動に参加できなかったのですが、「楽しかった！」ということが何より安心材料になったことと思います。これから、いろんなことに挑戦していくきっかけになればいいなあと思います。

また9月19日には、今年度2回目のガイドヘルパー研修会を開きました。前回の研修会「介護される側体験」では、“介護されること”について、様々な意見が出されました。今回は、身体障害を持つSさんを講師に迎え、当事者側からの介護について感じていることを話してもらい、そのことを踏まえて「相手の個性を認める」ということをゲームを交えたワークショップ形式で進めていきました。ワークショップ形式のいいところは、講演者の話を聴くだけのお客さんの姿勢ではなく、体を動かしたり自分の意見を発表することで積極的に参加できることです。研修会の最後には、これから自分はどのように思うか1人ずつ述べてもらいました。「人は自分の考えたことでしか行動することができない。表現しないことには責任感も生まれぬ(今回の研修会で参考にしたワークショップのテキストから)」の言葉どおり、今後の活動につなげてほしいと思います。(たき)



10月25日	東大阪健康まつり
11月7日	自由活動

## グループホーム&ショートステイ日記



夏のお盆の休みにみんなでキャンプに出かけました。

奈良県天川村にある「家族旅行村」というところです。参加者は、肌勢さん・生田さん・麻窪さん・武田君・西尾君、介護で広田・梅本・野村・河合の総勢9名。

カヌーで遊び、バーベキューをして、町営の天然温泉に出かけて、バンガローで1泊。翌朝はアマゴ釣りにくりだした。この豊富(すぎる)メニューに介護の側はへろへろでしたが、メンバーは十分にアウトドアを楽しめたようです。

初体験コースが盛りだくさん。カヌー遊びはもちろん初めて。バンガローの「野営」も初めての人がほとんど。魚釣りもこんな深山での溪流釣りは初めてでしょう。武田君はカヌー乗りがいたく気に入り、介護者をせかせて何度も流れにこぎ出しました。水はメチャきれいな代わりに、メチャ冷たい。介護者は修験者にでもなった心境。(そういえばこの裏の大峰山は修験者の活躍したところ)



気持ちよい温泉から帰って、バンガローの前で酒盛り。それまでに十分できあがっていた西尾君は早寝でしたが、みんな遅くまでおしゃべりしました。

アマゴ釣りの結果は、生田さん6尾、麻窪さん1尾、河合さん1尾。釣りを楽しみにしていた肌勢さんは健闘むなしく……。そして何よりアマゴの塩焼き、うまかった。(広田)

⑥西尾君カヌーがいたく気に入った



## ショートステイ

### 新人(?)紹介

昨年6月からショートステイに関わっている梅本です。時々ですが、わくわく活動にも参加したりしています。今年4月からは非常勤ながら職員になり、ハンジーの一員として働いています。現在、ショートステイとグループホーム関係の仕事を担当していますが、他にも資料整理やら何やかやと頼まれることが多く、「ハンジーの雑用係」を自認しています。ショートステイでは、今年から入った野村くんと息のあったコンビで、メンバーの隠れたる才能や能力を引き出すことに夢中になっています。その辺りのことはまたの機会に触れるとして、とりあえず今後ともどうぞよろしく。(⑥の写真でカヌーに乗っている後ろの人が梅本)(ウメ)

今回は、ショップハンとなくやさしくてあたたかーを紹介したいと思いま囲気もピッタリという感



ジーのメニューの中から何かいイメージのハーブティす。秋の気配とともに、雰じがしますので……

5種類のハーブティーをおいています。

- ★カモミール (気分をおちつかせてくれ、眠れないときは自然な眠気を誘う。風邪の時も)
- ★ラベンダー (鎮静・肩凝り・消炎など薬効は盛りたくさん。気分を落ち着かせる)
- ★ローズ (緊張をほぐす。元気がない時に)
- ★ペパーミント (気分転換したいとき、スッキリする。冷却作用もあり、風邪や消化不良などに)
- ★ローズヒップ (美しいローズ色。ビタミンCが豊富。酸味がさわやか)

「一度のんでみようか」と注文される方や、「なかなかいいね」と毎回違う味を楽しまれる人もいます。皆さんの感想は「思っていた以上にいいわ」です。ハン屋さん自信作のバウンドケーキとセットで。皆様もいかがでしょうか (はたなか)

今回は、いつもバンジーの **厨房より** 給食を食べているグルメの麻窪さんにインタビューを しました。

Q: ハンジーの給食はどうですか?

みどり: 味がからいときがあつて、量が多い。肉類が多いなあ。でも、おいしい

Q: 今までで一番気に入ったメニュー何ですか?

みどり: 八宝菜とかゆかりごはん、ひじきとかロールキャベツ

Q: 食欲の秋で、いろんなもののおいしくなるけど、何か希望はありますか? (そばにいた、職員Nさんが突然「この前の栗ご飯おいしかった♥」)

みどり: さつまいもごはん。この頃でてないもん。あと貝のみそしるも飲みたい

Q: 焼きいもとか食べたいですね。おやつで希望はありますか?

みどり: 秋やからナシとかカキかなあ。

Q: みどりさんはお料理していますか? 野菜の皮むきとか得意でしたよね

みどり: うん、得意やで。いそがしいときはパン屋をやめて手伝ってあげるわ。

Q: そのときはよろしくね。

みどりさん、ありがとう。ご希望にそえるよう、厨房もがんばります。毎日12時と3時40分を楽しみにしています。(河合)

どらえもん会のページ

大阪府交渉にいきました

7月23日(木)、8月4日(火)に日赤会館で大阪府との交渉を行いました。大阪府各地から、障害者が社会で自立できるための制度を作らせたという思いを持った、多くの人々が集まりました。今年「どらえもん会」や「なかま会」で交渉についての勉強会をして行きました。当日、パンジーでみんなをひっぱっている麻窪さんが立ち上がりました。大阪府の人に向かって「重度の人はガイドヘルパー制度を使えるのに、軽度の人が使えないのはおかしい。みんなが使える制度にしてほしい」「金剛コロニーに見学に行ってメンバーと交流をしたいと言ったけれど断られた。どうしてですか」など、積極的に意見を言いました。その頼もしい姿に、ほれほれました。麻窪さんに今回の交渉の感想を聞いてみました。

「私たちの話しを分かってくれたかどうかはつきりわからない。毎年、同じことをいっているのに。向こうは、分かった、分かったといっているけど分かっていないと思う。しかし、相手も人間やからいつか分かってくれる時が来る。焦らずやっていくしかない」と辛口の感想でした。交渉はむずかしい言葉がおおくて、分かりにくい印象があります。麻窪さんは「来年は交渉を分かりやすく文章にして、来れなかった人にもファックスで流したい」とのことでした。



# パンジー

9月2～4日、2泊3日、このことは”人とであう”をテーマに、1日め、とうきょうかんこうをし、パンジーの「元気のでるはなし」や「うです」2日めはよこはまやえのしまかんこうをしました。おおいでにのこる、たびでした。ではメンバーのこ



私はこわいと思いきんがくしなかったのです。けど、あとからかんがえたら、けっしてウシやブタをかいたいするのを見るだけでなく、そこではたらく人々のはたらきぶりや、かおにであうもくてきもあつたと思ひ、1日めのこうりゆうかいでおっちゃんらがほんまにやさしかつて、その人たちのしごとをみれなくてとても、とてもくやし、もうしわけなく思ひなみだがでました。(栗岡)

あさくさめいぶつ かみなりもんでピース

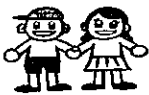


おお！鎌倉の大仏よ



# 旅行 in 横浜とじょう

いいのバンジー旅行にいつてきました。  
?によこはまのとじょうではたらく人々にあつてきました。  
5と、とじょうのおくじょうで焼き肉・こうりゅうかい  
うたいかい」でもりあがりました。  
3日目はとじょうの見学しました。人のあたたかさにふれ、  
きどうぞ！！



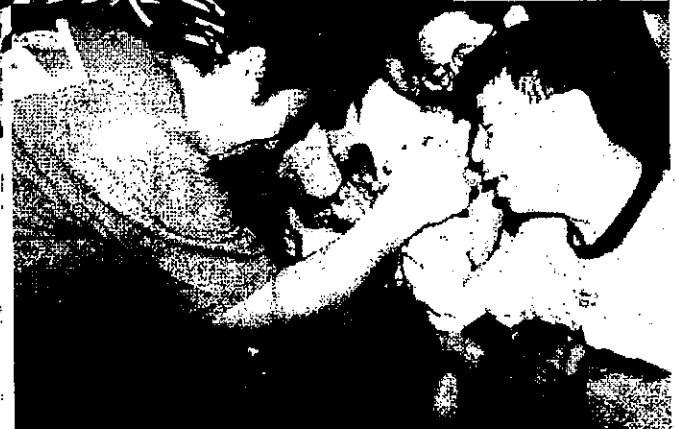
「元氣の出るはなし」を梅原君と生田さんと3人でしました。  
とじょうの人たちが、はくしゅをいっぱいしてくれて、いけんもいっ  
ぱいでたので、私はかえりのバスの中で、うれしなきしてしまつた。

とじょうでブタとウシが、ころされているところをみて、かわいそうだとおも  
いました。でも、おじさんやおにいさんが、しごとをいっしょうけんめいしているの  
が、かっこよかったです。私もやりたいとおもいました。(福田)



これからは、  
にくをだいじに  
しなくちゃとお  
もつた。(青山)

とじょう &  
うですもう大





今年も7月末に「コミュニケーションの難しい人のワークショップ」が行われた。プログラムは毎年少しずつ異なるものの、同じ場所での三回目ということで、メンバー達はのびのびと楽しむことができたように思う。私にとっては、年一回メンバーのお母さん達とひざを交えて話し合えるよい機会でもある。お母さんは夜のその会のためだけに、はるばる生駒山上来てくださる（もちろん少しのビールとささやかな定食もついてはいるが）同じような立場の親同士の気安さか、今年も最終バスの出発間際まで話題は盛りだくさんだった。

今回はその中で出された「おうむ返し（エコラリア）」について考えてみよう。

ある日のわくわく活動でのこと、N君はプールのすべり台が好きで、急流すべりを楽しみに参加した。一回すべった後、「怖かった？」と聞くと、「怖かった」と答えたため、すべり台を中止しましたとのガイドヘルパーの報告に、母親としては「もう一回すべりたい？」と聞いてほしかったと笑いながら話されていた。きっと怖そうなN君の様子に、ガイドヘルパーさんは大丈夫かどうか確かめたのだろうが、N君はその意図が分からなかったし、ヘルパーさんも自閉症の人のエコラリアについての理解が足りなかったと思われる。

前号の『バンジーだより』では、自分

のメッセージ（やりたいこと、やってほしいこと）の伝え方について書いたが、自閉症の人にとってより困難なのは、自分に言われたことを理解することである。例えば「怖かった？」では「怖い」という言葉の意味だけでなく、今すべったプールの急流という手がかり（文脈）があってはじめて質問の意味が理解できるのだが、彼らはその手がかりに気づいていない。だから何を聞かれているのか分からないことが多い。

おうむ返しは、会話しなければならぬ状況にあつて、相手のメッセージが理解できない時の、彼らなりの応答なのではないだろうか。彼らはまじめに応答しようとしているので

### 言葉とコミュニケーション・3

中新井 滯子

ある。英会話の苦手な私も、相手の言っていることが理解できないときは、最後のフレーズを繰り返せと教えられた経験がある。会話を進める相づちのようなもので、自分はハスして相手に次の出方をゆだねるのである。

エコラリアは相手の話を分かった上で、それを肯定する答えとして出てくる場合もあるが、言われたことを理解していないときにする方が多いようである。だから彼らの理解を助けるために、言葉だけでなくもっと分かりやすい目に見える手がかりを積極的に使いたい。

N君の例では、すべり台の写真がのっているパンフでもあれば、それを使って何がしたいのかを確かめる方法もある。怖くてもやりたい、怖いからやりたいことだって人間にはあるのだから……。



ガイドヘルパー物語

バンジーに来るようになって

松本真弓



もう何回ヘルパーとして活動したかな。活動したのは5回ぐらいなのだけれど、もっと参加したように思うのは、メンバーさん、ヘルパーさんのキャラクターの多彩さによるのでしょうか。次は前々回私が腰痛のため御一緒できなかったAさん。行き先はプールとの事。腰をうかがいながら、まともや楽しみにしているのです。なぜハンジーに来ているかといえは、一口でいえば好きなんでしょうネ。私只今17才。私のできる事、やってきた事を考えると何かヘルパー的なことを考えていたのでしょね。市政だよりでガイドヘルパー募集の広告を知り、知人に尋ね、一度やってみようと思ひ、以後何故か楽しみながらやっています。

何故か？このあたりから考えてみると、私は今まで何とか健康で私の周りにもそんなに障害のある人との接触はほとんどなかったのです。私が10才の頃、学童保育の指導員をしているのですが、自閉症のBくんが来るようになったのです。彼と初めて会った時、ある種の不安と何か遠慮じみた感情が起こったことを覚えています。初めのうちは話のできないIくんに安らぎやいらだちや悔しさを感じたりの日々だったのですが、私にも初めの不安や遠慮じみた感情は徐々に「他の子も同じ」という思いに変わっていったと思います。小学2年から卒業までの5年間という月日が私に変化をもたらしたのかもしれませんが。Iくんと忘れられない事があります。高いところへ上がってうんていの上を走り回っていたIくん。心配されたお母さんからストップがかかり、必死で叱った私のウデをひき、上を指さし2、3回頷いたのです。私の気持ちは伝わったのだと思いジーンとなりました。このIくんが卒業の頃、私は彼と彼の家族の人に会えたことをとても嬉しく、何かいろいろな人に会うのは大きくなったIくんに会えた様でとても楽しみです。来られるかぎり、これからもよろしく。



# アラスカ道中膝栗毛(その2)

前回につづいて、アラスカ・ピープルファースト  
世界大会の報告第2弾



## 河野陽子買い物 編

ひこうきにのって とおいところにいった。たのしかった。ひこうきのなかで ごはんをたべた。くろいふくの おばちゃん(スチュワーデス!)がもってきてくれた。いろいろ たべた。まいにち よなかの 5じに おきてでかけた。とけいを かった。おみせの おじさんが もってきてくれた。「ヨーコ」とよばれた。ネックレスをかった。いろいろ たのしかった。またいきたい。

## 岡本智アラスカの味覚編

＜シアトル空港のジュース(3ドル)でいきなりのつまづき。＞

アメリカへ行ったことなかったから、何か良かった。また行きたい。けれど、アメリカやから(日本食)は少ないと思ったけども、アメリカのメシを食わなしゃあない。料理はもひとつやったな。ただ、ハムはおいしかった。アラスカのシーフード料理は食べたけど、あんまり日本とかわらへん。会議の時の朝食のパンはあんまりおいしくなかった。会議の時のデザートケーキはあんまりおいしくなかった。日本の飛行機のごはんはけっこうおいしかった。アメリカの飛行機のサンドイッチはけっこうおいしかった。ビールはちょっと苦手やけど、ワインはあんまりきつくなかったしいげると思った。



★吉竹敦生アラスカ地獄変 (参考資料)

＜建物の外でビールを飲んじゃいけません。アメリカを痛感、というか激痛＞

アラスカのビール(アラスカンアンバー)はおいしかったけれど、ノンアルコールビールはとても飲めたもんじゃない。あとノンアルコールではないけれど、なんかまずいビール(???)飲んだ気がする。ホテルの外でビールを買えなかったのはちょっとつらかった。ルームサービスが11時までで終わってるし、遅くまで会議やってるし、バーも閉まってるし、八方塞がりという感じだった。あと、会議場の酒売場でアラスカのビールを選んで買ったとき、店員のおとつあん、「Good Choise!」とのなまって、少々嬉しかったけれど、実際、何のことやら、ようわからんよなあ。一応、「Taste Good!」と言ったけれど、きつと通じてないんだろうな。帰りのノースウエスト機内でサントリーモルツを飲んだけれどそれが一番うまかった、というか、体がうけつける味なんだろう。



★ **ピープルファーストは運動だ！職員・広田編** (月刊誌『Agiō』に投稿したものを一部転載)

1日目のオープニングセレモニーでは、大統領直属の障害者問題の委員会の一員であるT・J・モンローという元気な当事者の発言が光った。カウボーイハットをかぶって登場し、パフォーマンスをくりひろげる。さんざん盛り上げ、みんなの気分が乗ったところで自分の生い立ちを話してくれた。16歳まで施設で生活していたこと、自立しようと思いついたけど何度も失敗を繰り返したこと、今はみんなのために働いて幸せなこと、そして「みんな、手を取り合って自分たちの未来のためにがんばろう」とアピールした。全体集会の中で、バンジーの生田さんが『シングループ事件』のことをアピールしたらモンローさんが興味を持ち、3日目に1時間ほど生田さんと話し合った。(それがきっかけで11月に奈良であるピープルファースト大会に、T・J・モンローが参加することになった！！ Welcom T.J!!)

アメリカのピープルファースト運動は、聞いていたとおりにはパワフルだった。たいがいのことは当事者でやってのけてしまうので、驚きだ。日本と違うと思ったところは、パフォーマンスが上手であること。ゲームのような遊び感覚で話しているうちに打ち解けて、しっかり話し込んでいるという分科会もあった。どうやったら話が出やすくなるか、どう表現しどう運営したら分かりやすいかということに真剣に取り組んでいる。体を動かすこと、ビジュアルにすること、一方的に聞くだけでなく話に参加する形で運営するなど、工夫が見られた。知的障害という障害をきちんと理解し、障害に見合ったコミュニケーションの仕方を編み出していくという努力の現れだろう。



今回、ここだけは見てこようと思っていたことは、当事者運動を作り上げていく上で支援者の位置と役割はどんな形になっているのかということだ。

日本でもピープルファーストの運動が紹介されてきたが、そのテーゼの一つに「支援者は当事者の問題に介入せず、一線を引いて関わるべきだ」というものがある。長く知的障害者自身の意志が無視されてきた中で、これが強調されるのは正しいことだ。アメリカの人たちが公式的にしゃべるときにこのことを強調するのも納得できる。しかし運動の実際では、それで済まないことが多々あり、しかもそのところこそがもっとも大事な場面であったりする。

日本で知的障害者の当事者運動に関わる人たちの話を聞いていて、この公式を隠れ蓑にして「自分たち自身が問われるようなシビアな関わりを回避しているだけじゃないのかな？」と感じる時さえ、ままする。「やるべき時はやる、結果を見て間違いだと気づいたら即座に率直に自己をただす」という流儀でいけないのかということを確認してみたかったのだ。結論から言って、アメリカのファシリテーターはしっかりと踏み込んで関わっていた。(広田)

## 書き損じハガキ、(未使用)切手を待っています!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

### ご協力ありがとうございます

＜後援会費を振り込んでいただいた方＞ (敬称を略させていただきます)

墳下智里 佐々木敏子 泉原寛康 久保田卓 朝平由紀 倉橋直樹  
小川節子 吉田和子 中田和伸 「ひまわりの家」をつくろう会  
中林恵子 野畑宏治 石崎邦彦

＜カンパ・寄付をいただいた方＞

墳下智里 三崎純夫 松本真弓 泉原寛康 吉本康子 大川真紀代  
久保田卓 倉橋直樹 小川節子 岡本多恵代 道宮敬子 中藤加奈子  
田口昭男 青新一

＜書き損じハガキ・未使用切手をお送りいただいた方＞

岡本多恵代 自然食品の 高橋恵美 飛鳥井佳子 太田かよ子  
いちよう学園診療所

＜外へ飛び出すためのカンパをいただいた方＞

石崎邦彦 森脇正文



### パンジーのメンバーが講演に行きます!

障害者も健常者も共に暮らしやすい社会について、一緒に考えませんか。学校の教師や生徒、知的障害の人々、市民講座、ヘルパー対象など、どこへでもかけてゆきます! 詳しくはパンジーまでお電話ください。【7月・8月・9月の実績】デュフック

### ピープルファースト大会in奈良に参加しませんか!

毎年各地で行われてきた、知的障害者の全国大会が11月22・23日に奈良県で開催されます。今年の名前も、ズバリ「ピープルファースト大会」になってさらにパワーアップ!

くわしくは、パンジーまでお電話ください。



パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号		00950-1-300551	

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8  
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818  
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会  
大阪市城東区東中浜2-10-3  
緑橋グリーンハイヴ1F・7F企画気付